

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100096		
法人名	株式会社 ブルーム		
事業所名	グループホーム さくら（みずいろ）		
所在地	〒026-0055 岩手県釜石市甲子町5-2-4		
自己評価作成日	令和8年1月3日	評価結果市町村受理日	令和8年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度も敬老会は地域の方々と合同で行い、親睦を深めることができた。 ・火災訓練や災害訓練に真剣に向き合い、今年度は難易度をあげ、事前に日程を知らせず突然非常ベルが鳴ってから の訓練に初挑戦した。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は釜石市内の西部に位置し、JR釜石線洞泉駅から徒歩5分、道の駅釜石仙人峠から車で3分の住宅地にある。運営法人は他に市内に有料老人ホーム、デイサービスセンター、ヘルパーステーション、居宅介護事業所の4つを展開しサポート体制を整えている。洞関地区と一ノ渡地区の町内会に跨り、町内会行事(盆踊り、草刈り、敬老会)にも積極的に参加している。災害に備えた町内会との協定もあり、時間をかけて地域と築いた信頼関係が町内会を通じた相互の助け合いとして浸透している。訪問診療の医師の協力体制も整っており、終末期の意向に沿う支援が行われている。災害に備えた独自の避難所や職員の健康管理に寄与する福利厚生も充実しており、理念に謳う「住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域と関わりを大切にしながら支援する」「高齢者の尊厳ある生活を重視し、生きがいと喜びを持った穏やかな生活を大切にする」を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

〔評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会〕

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を生活全体に結びつくように、支援や職員間での意見交換を行い実践に繋げている。	平成24年の開設当初に掲げた理念は、定期的な見直しの検討を行いながら、加筆することなく用いられている。年初には年度目標と個人目標を設定し、中間期と年度末に振り返りを行うことで職員の意識統一を図っており、日々の業務で職員が常に相談しあい、実践する職場風土が根付いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所は地域の町内会に加入し、町内会の草取り等があれば、職員や利用者と一緒に参加している。また、町内会主催の盆踊り大会や旅行会などにも、利用者と職員が可能であれば参加している。	洞関、一ノ渡の二つの町内会に加入し交流がある。地域行事として町内会と合同で敬老会や盆踊り、草刈りへ参加している。今年度は事業所敷地内の木の伐採及び草取りを地域住民の協力で行い、日照が改善された。また、地域住民からイルミネーションの寄付があり、飾り付けも持ち主と一緒にやっている。これまで積み上げてきた地域との繋がりは、事業所にとって無くてはならないものになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実践できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では現状報告、困難事例、行事等の報告をしている。コロナ等もあり、今年度は定期的に行えず、資料配布をして対応したりした。昨年アドバイスいただいた、昼食を一緒に摂ったり、会議の持ち方の工夫はできなかったため、8年度は少しでも実践していきたい。	メンバーは地域包括支援センター、町内会長、家族代表、民生委員、駐在所で構成されている。運営推進会議の開催方法については昨年度からの課題に挙げられていたが、感染症の蔓延で取り組みが思うように進まなかった実情がある。駐在所には都度声掛けをしているが参加を得られていないが、新たに近傍にある大松学園(身障施設)の施設長が加わっている。	構成メンバーには厚みがあるため、開催月のルール化や議題を事前にお知らせするなど、委員が参加しやすい工夫を講じられることを期待します。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの方が運営推進会議のメンバーであり、また、利用者の中に生活保護担当や包括担当の利用者がいるので、情報交換や連絡はこまめに行っている。	市役所の事業所専用箱で書類の受け渡しや利用者の相談等で地域包括支援センターとのやり取りがある。防災ラジオを設置し、市の防災情報を受け情報交換なども行われている。市や地域包括支援センターの職員とも顔なじみとなり、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で委員会を設置し、定期的に会議を行っている。また、全体研修も開催し、身体拘束についての勉強会を行っている。	法人内の全事業所合同で2ヵ月おきに身体拘束・虐待防止委員会を開催し各種研修も行っている。スピーチロックは気づいた職員同士がその場で注意し合い改善を徹底している。敬語では距離を感じるとする利用者もあり、馴染みの方言を交えた声掛けを行っている。センサーは必要時以外は使っていない。夜間は30分起きの巡視で安全の確保に努めている。玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で委員会を設置し、定期的に会議を行っている。また、全体研修も開催し、虐待についての勉強会を行い、職員間でも気づいたことがあったら、その都度意見を言う環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護単独の勉強会は今のところ行っていないが、利用者の中に成年後見制度を利用している方がいるので、申し送り等で職員全体に周知させている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	自宅に伺ったり施設に来ていただいて、説明や疑問点を聞いて不安がないように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に職員から利用者のご家族へ手紙を送って、現状を報告し、ご家族様からの連絡があった時は職員で情報交を行い、できるだけご家族様の意見を反映させている。また、施設側からも定期的に電話で直接報告や相談を行い、ご家族様の意見も聞きながら情報共有している。	事前調査や入居時の家族への聞き取り、普段の会話から思いや心配事を聞き取り支援に繋げている。家族からは受診報告時や面会の際に要望を伺うこともあり、突然の訪問でも対応できる体制をとっている。また、居室担当は2ヵ月おきに利用者の生活状況を手紙に綴り、写真を同封してお届けしている。	感染症対策として面会時間や場所に一定の制限を設けているため、頻繁に来られない家族の心情を汲み取る方策の工夫が必要と思われます。家族アンケート等で意向を調査し、検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が悩んだり相談したいときは、仕事の話に関わらず、管理者や社長が時間を設け、ゆっくり職員の話聞くように努めている。また、仕事に関する職員の意見等は、定期的に開催している運営会議や合同会議で報告、相談している。	職員は20代からベテランまで幅広く、毎年1回個人面談で提案や要望などを把握している。業務についての提案は毎月の合同会議や管理者会議において取り上げ検討され、シフト調整や備品購入に繋がっている。キャリアアップへの支援も充実しており職員の資質向上等に力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表が、毎月個々のタイムカードをチェックし、自由に有休や休み希望を取り、シフトにも反映させている。また、勤務時間の希望の相談や条件についても、個々に面談を行い、希望に沿うよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月研修会を開催している。外部研修にも一人ひとりのレベルに合った研修等に参加出来るように確保し、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	実践できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の際は、本人や家族の話を聞き、困っていることや不安なことに耳を傾け、できるだけ要望に沿うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の際は、本人や家族の話を聞き、困っていることや不安なことに耳を傾け、できるだけ要望に沿うよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居の際は、家族や担当ケアマネジャー、病院の相談員等と連絡を取りあい、状況を把握し、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が、一人のできる作業はやっていただきながら、残存機能を生かすように心がけている。また、介護する前に本人にも大変なところえお聞きながら、手伝えるところを介助するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との電話や手紙等で信頼関係を深め、お互いに意見を言いながら、よりよい関係を築けていると思う。また、携帯電話を使える方には使えるように環境を整えて家族と自由に会話できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が行きたい美容院や買い物、知人の面会等、関係を継続できるように支援している。	入居時に利用者へ馴染みの場所を聞き取っている。サークル活動や仕事の同僚といった友人の訪問がある他、馴染みの美容室が送迎付きで散髪してくれる等の協力が得られている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人ひとりの性格を把握し、利用者同士のトラブルが起こらないよう、席や、外出時の順番等、孤立しないように気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も荷物を預かったり郵便物の保管を行ったりして、支援を続けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの気持ちを聞きながら、希望に沿えるようにしている。また、あまり言葉を発せない利用者には、「うん。ううん。」で答えられる質問をしたり、工夫したりしている。	利用者は概ね意思疎通に支障はないが、聴力低下のある利用者へは耳元で話すよう努めている。聴力レベルに応じたコミュニケーションの方法として「イエス」「ノー」で答えられる質問方法を工夫し、利用者の意思決定を支援している。進んで自ら家事を手伝う方、元の職業や特技をレクリエーションに活かす方など、利用者の持てる力を活かした支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際は、生活歴やご家族様から情報を収集し、職員全体で把握するようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりに合った趣味をしたり、申し送り等で状態や様子を情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一人ひとり、居室担当の職員を決め、担当職員とケアマネジャー、管理者でアセスメントお行ったり、日々のケアについて話し合ったりして計画を見直したり、変化があったらご家族様と話し合い、それぞれの意見を反映させている。	入居時のアセスメントは管理者と介護支援専門員が行って初回プランを作成している。原則6ヵ月、変化がある場合はその都度見直しを行っている。原案は居室担当者、介護支援専門員、管理者で作成し、食事形態や服薬内容等のケア方法に変更がある場合には、職員会議での検討を経て見直している。家族へは丁寧にその心情を汲み取りながら説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の日課を記録したり、申し送りノートで情報共有したり、お互い気づいたことは意見を言い合い、良い介護に繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限りその時々ニーズに合わせて取り組んでいる。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	実践できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様と本人の希望に沿って支援している。入居前と同じかかりつけ医希望の場合、通院介助行ったり、ご家族様が付き添いで受診したりしている。とくに希望がない場合は、入居の際に、契約している訪問診療のかかりつけ医に変更している。	入居時は近隣の医療機関の協力を得てレントゲン検査などの検査と診察を受けている。それ以降は両ユニットで14名が釜石ファミリークリニックの訪問診療を月2回受診し、他の4名は個々のかかりつけ医に通院している。歯科も甲子歯科医院が必要時の訪問診療が可能である。通院する利用者はいずれも家族が対応しており、伝達事項を書面にして家族へ手渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職はいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、医療機関と連絡を取り合い、情報共有し、必要に応じてご本人と面会したりしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様やかかりつけ医と相談を重ね、ご家族様や本人の希望に応じて対応している。ご家族様が看取りを希望の場合には、看取りも対応している。	利用者が重篤な状態になってきた場合には、医師から終末期や看取りの対応について家族へ直接説明し、利用者及び家族の意向を踏まえた支援を行っている。看取りの場合には、居室を移動し家族も泊まれるように配慮している。今年度はないが、これまで6名を看取っている。職員に対するターミナルケアの研修は、法人内の看護師を講師として実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修会で急変時や事故の対応について勉強している。また年に一度、消防署立ち合いのもと、AEDや止血等の講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、消防署立ち合いで火災訓練お行っている。災害訓練も行い、職員や利用者が速やかに避難できるよう日々勉強している。今年度は、初めて、日程を職員に知らせず訓練を行った。普段とは違う緊張感で勉強になった。	ハザードマップ上は河川氾濫の心配はないが土砂災害の危険区域とされている。年2回消防署立会いで日中、夜間を想定した訓練を実施している。今年度は図上訓練をした上で抜き打ちの避難訓練を実施し、非常ベルが聞こえない場所が判明している。緊急時二階から利用者が座ったまま階段を降りれる非常用階段避難車を備えている。町内会との地域協定を締結済し、非常時は町内会長宅へ自動通報が届くよう設定されている。また、事業所は、地域住民の避難所としても位置付けられている。特にも、市の避難所では利用者のケアが困難なことから、法人独自に民間住宅を借り上げ、災害時への備えとしている。コロナ禍に際し職員用に借家(3室)を確保し、職員への感染を防ぎ事業所運営を継続できる方策が講じられている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいる)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人ひとり、言葉には気を配り対応している。日々の業務では職員同士注意し合いながら、丁寧に対応するよう心がけている。	利用者間の人間関係に配慮した席替え、言葉の選択に配慮している。排泄介助においてはトイレへはノックして入る、排泄中はドアの外で待つ、人影の動きを察知して介助に入る等を徹底している。毎年1回ハラスメントの研修を行い、講師は職員が順番に務めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、本人に聞いたり、自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのニーズに合わせて支援している。起きたくないときは起こさず、時間をずらして食事提供したりしている。また、夜間も好きな時間までテレビを観たりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、好きな服や化粧したり、その人に合った支援をしている。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	苦手な食材はその利用者には出さないようにしたり、食べたい食事の要望を聞いたりしている。食器も拭いていただいたり、一緒に片付けも行っている。	それぞれのユニットで職員が調理しその日の献立がユニットで全く違っている。3食手作りにこだわり、彩りや味付けを工夫している。利用者の要望に応えながら計量し無駄を省く意識も徹底している。外食は年1、2回、少人数で出かけている。ひな祭りやクリスマスといった行事はどちらかのユニットに集まり一緒に楽しんでいる。調理は難しいが食器拭きや下膳は一部の利用者に手伝ってもらっている。近くの道の駅などにラーメンを食べに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に合わせた食事量にしている。また、水分も足りなくならないよう、夜間も含め適度に水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後は、個々に口腔ケアを行い、清潔を保っている。一人で出来る利用者には見守りしながら口腔ケアをしていただき、介助が必要な利用者には職員がゆっくり付き添いながら口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	毎日排泄チェックを行い、適度にトイレ誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。	排泄チェック表でパターンに合わせた声掛け、トイレでの排泄を促している。水分摂取量も確認し便秘予防を行っている。オムツ使用者は両ユニットに1名ずつおり、3時間おきの見守りと随時の交換対応を行っている。病院からオムツ使用で退院してきた利用者はリハビリパンツに交換しトイレへ誘導していくことで、立ち上がり動作が改善している。入居時から布パンツ使用の方は、現在も維持されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防として、水分を多めに摂っていただいたり、お腹のマッサージを行ったり、少しでも改善するよう対応している。また、かかりつけ医に相談して、内服薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている。	一人ひとりのペースに合わせて支援している。シャワー浴希望の利用者にはシャワーで対応したり、異性介助に抵抗ある利用者には同性職員が介助するよう努めている。姉妹が入居しているが、姉妹が一緒に入りたい時は二人一緒に入浴する時もある。	入浴は週2回13時から15時の間で一日3人を目安に一对一の対応を行っている。入浴を拒否する利用者はなく、姉妹で一緒に入る方もある。異性介助の拒否がある利用者へは同性職員が対応している。希望や状態に応じてシャワー浴の場合もある。湯温を小まめに調整し、柚子を浮かべたり、新しい湯を浴槽いっぱい足しながら一人ひとりの入浴時間を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は決まっておらず、好きな時間に休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に内服している薬情報を職員間で情報共有し、常に把握するよう努めている。また、薬の減薬や増薬などあった場合は、その都度の申し送り情報共有している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	それぞれ好きなことが出来るよう支援している。将棋、かるた、洗濯たたみ、テレビ観賞、散歩等、できるだけ要望に応えながら対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望の美容院に外出したり、通院時の買い物など支援している。コロナの状況によるが、外で外食した時もある。今後も続けていけるよう支援していきたい。	事業所前に国道があり、外出には車を使うことが多い。花見や紅葉時期は少人数ずつ出かけている。敷地内の駐車場にイスを出して外気浴をすることもあるが、散歩はクマなどの出没もあり積極的には出られない状況がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物時などに、一緒にお金を持って、買い物したりしているが、普段は個々にお金を持つことはしておらず、また、個々のお金の預かりも当施設では行っておらず、使う場合は経費より精算し、請求書に加算している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話や知り合いからの電話があった場合、本人に取り次いでいる。また、本人からも電話したい要望があった場合も対応している。手紙も施設に届いた時は本人に渡している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節によって装飾を変えたりしている。居室内も、利用者の身体に合わせて温度や照明を工夫して支援している。	窓から差し込む光が多く共用空間は明るい。ソファ、テレビ、テーブル、椅子が配置され、キッチンからもホールを見渡せる。1階の窓際には新聞や本などが置いてあり、いつでも手に取り読むことができる。1階と2階はエレベーターで昇降できる。一般浴槽は各ユニットごとにあり、トイレも各3カ所ずつある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きな場所に座り利用者どうし会話できる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	好きな家具、椅子など持参してもらっている。中には、位牌や仏壇を部屋に置いている利用者もいる。	ベッド、エアコン、筆筒、室内洗面所は全室完備。ポータブルトイレは備品として貸し出している。利用者が個々に位牌や写真、ぬいぐるみ等の馴染みの物を持ち込んでおり、居心地のよい空間になっている。国道と反対の生垣側に向いている居室は、広さを重視した間取りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室が分からない場合など、分かりやすく表示したものを設置したり、作成している。廊下には、歩行の妨げにならないよう、邪魔な物は置かず、広い空間が保てるよう努めている。		